

様式第 1

実施計画書（普通科改革支援事業）

令和 6 年 2 月 1 日

支出負担行為担当官

文部科学省初等中等教育局長 殿

（受託者）住 所 長崎県長崎市尾上町 3 番 1 号
名称及び 長崎県教育委員会
代表者名 教育長 前川 謙介

令和 6 年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」に関する実施計画書を以下のとおり提出いたします。

記

1 事業の概要

（1）学際領域学科又は地域社会学科を設置する学校名・設置（予定）年度

公立・私立・ 国立・株立の別	学校名 (ふりがな)	学科の種類	設置（予定） 年度	決定
公立	ながさきけんりつまつうらこうとうがっこう 長崎県立松浦高等学校	地域社会学科	令和 4 年度	○

※学科の種類は学際領域学科又は地域社会学科の別を記載すること。

※設置（予定）年度は令和 4 年度、令和 5 年度又は令和 6 年度を記載すること。

※教育委員会等における決定を経ている等、組織として設置が決定している場合には、「決定」欄に○を付すこと。

（2）学校の詳細

課程別	新学科の 収容定員	学年制・ 単位制の別	学科の名称（決定している場合）
全日制	240人	学年制	地域科学科

※課程別は、全日制・定時制・通信制の別を記載すること。

（既存の学科を転換する場合は、以下も記載）

現在の生徒数	現在の学科の種類	現在の学科の名称
114人	普通教育を主とする学科	地域科学科（1・2年）・普通科（3年）

(3) 当該学科における特色・魅力ある先進的な教育の取組について

①松浦高等学校地域科学科の特色

- ・松浦高等学校は、長崎県松浦市内にある唯一の高等学校であり、入学者の減少を受けて、平成25年度に、松浦市が松浦高等学校の生徒を対象とした就学支援制度を創設した。また翌26年度には、それまでの普通科に加えて、中学生の多様な進路希望への対応を図るため商業科を併設した。

【普通科2クラス（定員80名）、商業科1クラス（定員40名）】

- ・令和3年6月に策定した「長崎県立高等学校教育改革第9次実施計画」により、松浦高等学校のこれまでの取組の成果や国の普通科改革に係る制度改正等を踏まえ、地域や社会の未来を担うリーダーの育成を図るために、現在及び未来の地域社会が有する課題や魅力に着目した科学的・実践的学びに重点的に取り組む地域科学科（地域社会学科）を、令和4年4月から全国初の新たな普通科として設置した。

【地域科学科2クラス（定員80名）、商業科1クラス（定員40名）】

- ・地域科学科では普通教育に基盤を置きながら、地域社会の諸課題に積極的に関わり、「課題解決能力」「論理的思考力」「コミュニケーション力」などの資質・能力を育成するため「科学的な学び」「実践的な学び」に重点を置き、社会的課題や地域が有する魅力と自分との関わりについて領域横断的に学習を展開している。

②先進的な教育の取組

- ・「まつナビ」の開始（平成29年度～）

ふるさとを大切にする姿勢や課題解決能力を身に付けることを目指して、松浦市役所との協働により、2年生が地域課題の解決策について調査・考察・発表する教育活動「まつナビ」を開始した。

- ・文部科学省委託事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の研究指定校（令和2～4年度）

研究指定を受けて松浦高等学校と松浦市が協働で取り組んできた2年生での地域課題探究学習「まつナビ」に加え、1年生での「プレまつナビ」、3年生での「ポストまつナビ」のカリキュラム開発に取り組み、3年間の連続性のある探究学習「まつナビ・プロジェクト」に進化させた。

- ・文部科学省委託事業「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業（普通科改革支援事業）」の研究指定校（令和4年度～）

研究指定を受けて、地域科学科における地域課題探究学習と学習評価とを一体的に行うカリキュラムの開発や、中高・高大連携の推進、県内外の地域に根ざした高等学校とのネットワークの構築・交流に取り組んだ。さらに、コンソーシアム構成員でもある長崎大学教育学部からは、藤本登学部長を中心に、探究カリキュラムの開発、地域素材を活用した授業開発や評価方法の改善等で、指導助言をいただくこととしている。また、同じくコンソーシアム構成員である長崎県立大学地域創造学部バロリ・ブレンディ講師からは、地域課題探究における具体的なテーマ設定や研究方法等について、指導助言をいただくこととしている。

※10.5ポイント以上。1ページ以内で記入すること。

2 事業の目的等

(1) 学際領域学科又は地域社会学科を設置する高等学校を取り巻く状況の分析、学際領域学科又は地域社会学科を設置する必要性

①松浦高等学校を取り巻く状況

- ・長崎県は若者の流出や人口減少が著しく、地域を担う人材不足が深刻化している。そのため県内の多くの地域において、高等学校と地元自治体等が協働して地域活性化に資する人材の育成に取り組んでおり、今後その取組をさらに充実させるため、学校間の活動の連携を深めるネットワークづくりを進めることが求められている。
- ・松浦高等学校は、令和3年度に60周年を迎えた松浦市内にある唯一の高等学校であり、地域社会の未来を担う人材の育成が期待されている。
- ・松浦市からは、就学支援制度の創設（平成25年度～）、地域課題探究学習「まっナビ」への支援（平成29年度～）、文部科学省委託事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の研究開発（令和2～4年度）、文部科学省委託事業「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」の研究開発（令和4年度～）において、多面的な支援が行われている。
- ・市内中学校の保護者を含む地域の方々からは、自ら学ぶ姿勢を身に付け、基礎学力を高めることで生徒一人一人の進路希望の実現を図ることが求められている。特に高校卒業後の進路実現を含めたキャリア形成に係る教育活動の充実を望む声が強いの。また、生徒一人一人の責任ある言動ができるなどの「人間力」の育成や、県内外の高校生との交流を深めたり、地域の企業等との連携を深めたりすることによる、「活力ある」学校づくりが求められている。

②地域科学科（地域社会学科）を設置した必要性

- ・松浦高等学校のこれまでの取組の成果や国の普通科改革に係る制度改正等を踏まえ、地域や社会の未来を担うリーダーの育成を図るために、高等学校が立地する松浦市を中心とする地域社会から得られる様々な分野の知見を学ぶことにより教養を深め、現在及び未来の地域社会が有する課題や魅力に着目した科学的・実践的学びに重点的に取り組む学科を設置。
- ・県内の「地域に根ざした高等学校」の先行モデルとして新しい普通科を導入し、取組の成果の普及を図る。
- ・地域科学科（地域社会学科）においては、前述の内容を踏まえ、以下の①～③の取組の推進が必要である。

① 生徒個々のキャリアプランの作成をすすめ、そのプランに基づく進路希望の実現

② 松浦高等学校と近隣の中学校及び大学等との協働による地域活性化への貢献

③ 県内外の「地域に根ざした高等学校」との連携等による参加高等学校の活性化

※10.5ポイント以上。1ページ以内で記入すること。

(2) 学際領域学科又は地域社会学科における取組の目的・目標（学際領域学科又は地域社会学科における教育を通じて育成を目指す資質・能力を含む）

- ①目的 地域社会の未来を担うリーダーの育成
～目指す資質・能力の涵養と地域活性化への貢献～
- ②目標
- ① 生徒個々のキャリアプランに基づく進路希望の実現
 - ② 中学校、大学等との協働による地域活性化への貢献
 - ③ 県内外の「地域に根ざした高等学校（地域高校）」との連携等による学校活性化
- ③育成を目指す人物像及び育成を目指す資質・能力（以下、「資質・能力」。①～④）
- ① 将来の目標を持ち、その実現に向けて努力を続ける人物（キャリア形成力）
 - Ⓐ「働くこと」に関する情報の取捨選択を含むキャリア・プランニング力
 - Ⓑ自ら学び、行動する力
 - Ⓒ課題分析・解決能力（課題発見、データ分析、論理的考察、計画性等）
 - Ⓓコミュニケーション力（傾聴、対話、プレゼンテーション）
 - ② 責任感があり、相手を思いやる言動ができるなど、品性を備えた人物（Ⓒ責任言動力）
 - ③ ふるさとを大切に思い、その発展に貢献しようとする意欲を持つ人物（Ⓓふるさと貢献力）
- ④地域科学科における教育（概要）
- 「資質・能力」をもとに、次の①～⑤の教育活動の関連性を強める。また、各教育活動のルーブリック評価規準を明示し、生徒が各教育活動における取組の自己評価を行い、その改善を図ることができるようにする（指導と評価の一体化の推進）。
- ① 松高キャリア・プランニング
 - ② 「まつナビ・プロジェクト」（「地域高校」ネットワークの構築・協働研究を含む）
 - ③ 一人一人の生徒のキャリアプランを踏まえた普通教科の学びの充実
 - ④ 生徒の自己有能感を高めるための主体的な活動（生徒会活動、ボランティア活動等）
 - ⑤ 生徒の「責任ある言動」を伸ばす活動（部活動等）

※10.5ポイント以上。1ページ以内で記入すること。

3 実施体制

(1) 管理機関における実施体制や事業の管理方法

本事業の管理・指導・支援は、長崎県教育庁高校教育課が行うこととする。

①管理機関は、本事業の運営に関して指導助言に当たる運営指導委員会を設置するとともに、地域課題探究学習を組織的に支援するコンソーシアムとの連携協力体制を整備する。また、その連携協力が円滑に行われるよう、連絡調整を担うコーディネーターを松浦高等学校に配置する等、取組の支援を行う。

○運営指導委員会は、学識経験者や行政職員等、専門的見地から指導・助言に当たる第三者により組織し、事業の目的・目標を踏まえた地域科学科の研究内容について客観的に検証及び指導・助言を行う。

○コンソーシアムは、松浦市、大学、地元企業・経済団体、小・中学校等、豊富な実践と高い見識を持つ方々により構成し、幅広い視点から専門的な指導と助言を行う体制を築く。

○運営指導委員会及びコンソーシアムは、「指導と評価の一体化を目指すカリキュラム開発」、「中高連携、高大連携による生徒の資質・能力の育成」、「県内外の高等学校との連携による教員・生徒の資質・能力の向上」という観点からの指導・助言を行う。

○コーディネーターには、管理機関、松浦高等学校、コンソーシアムと将来の地域ビジョン・求める人材像等を共有でき、地域の実情や魅力・課題に深い見識を有する者を指名する。

②管理機関は、運営指導委員会と連携しながら、定期的に松浦高等学校を訪問し、教育課程編成、学校設定科目、カリキュラム・マネジメント、ルーブリック評価規準及び授業改善への指導助言等を行うとともに、コンソーシアムの更なる充実や、「地域に根ざした高等学校」ネットワーク構築に向けて必要な支援を行う。そして、進捗状況を把握した上で事業全体を管理し、事業の検証・改善への提案を行う。

③地元松浦市や松浦高等学校と連携しながら各種メディア等における広報活動を行い、地域科学科における教育活動や「資質・能力」について、中学生、保護者、地域住民への周知及び理解促進を図る。また、松浦高等学校を普通科改革のモデルケースとして、実践報告発表会等を通して他校への普及を図る。

※10.5ポイント以上。1ページ以内で記入すること。

(2) 管理機関における事業全体の成果検証、評価のための体制、考え方

管理機関は、松浦高等学校、コンソーシアム会議及び運営指導委員会と連携し、事業全体の成果検証及び評価を行う。

①松浦高等学校と連携した検証・評価

- ・生徒の目標達成度合いについて、管理機関、学びアドバイザー等により評価を行い、取組の成果を検証する。検証した結果は、運営指導委員会に報告する。
- ・広報活動により、地元中学生や保護者に対して、地域科学科の設置目的や、育成したい「資質・能力」についての理解促進が図られたかどうかを検証する。

②コンソーシアム会議と連携した検証・評価

- ・探究活動への研究支援及び生徒のキャリア形成への支援の充実に向けた取組の検証及び評価を行う。

③運営指導委員会と連携した検証・評価

- ・コンソーシアム会議等から報告された検証結果も踏まえ、事業全体の成果検証及び評価を行う。
- ・成果検証及び評価の結果について、コンソーシアム会議等に対してフィードバックを行う。

※10.5ポイント以上。1ページ以内で記入すること。

(3) 学際領域学科又は地域社会学科を設置する高等学校における事業の管理方法

地域科学科における、「資質・能力」の育成を目指した各教育活動の充実及び各教育活動の関連性の強化を図るため、P D C Aサイクルに基づく組織マネジメントを以下の体制で推進する。

①地域科学科・プロジェクトチーム

○担当業務

- ・各教育活動の関連性を強め、「資質・能力」を育成する活動としていくための企画・調整（カリキュラム・マネジメント）の推進

○組織

- ・プロジェクトリーダー（主・副）、コーディネーター、各学年の担当者等

○特色

- ・一人一人の生徒の「資質・能力」を育み、地域の未来を担う人材の育成を図るための「3年間計画」を策定し、計画に基づいた実践について検証・改善を図り、目指す「資質・能力」を育成するための組織的な取組を主導する。
- ・定例会議を開催し、率直な意見交換を進める。その際、コーディネーターからの気づき、提案等について検討し実践につなげることで、地域科学科としての教育活動の活性化を図る。

②地域科学科・活性化ミーティング

○担当業務

- ・研究開発の進捗管理を行い、プロジェクトチームが中心となって内容・方法等の改善を図る。

○組織

- ・校長、教頭、プロジェクトリーダー、コーディネーター等

○特色

- ・定期的にプロジェクトチームのメンバーに管理職を加えた意見交換等を実施し、教育活動全般の成果や課題等について検証し、担当者にフィードバックするなどして、その充実を図る。

③コンソーシアム会議における検証・改善

- 定期的なコンソーシアム会議における、松浦高等学校との連携の内容・方法等に関する意見等を踏まえ、プロジェクトチームが中心となって改善案を検討し、以後の計画等に反映させるとともに、次回会議・ミーティングでその内容等をフィードバックする。

④運営指導委員会による検証・改善

- 定期的な運営指導委員会による事業の検証及び指導助言等を踏まえ、プロジェクトチームが中心となって改善案を検討し、以後の計画等に反映させるとともに、次回会議でその内容を報告する。

※10.5ポイント以上。1ページ以内で記入すること。

(4) 管理機関及び申請校における研究開発の実績（申請校が新設校の場合、管理機関における実績のみを記載）

①管理機関における研究開発の実績

本県では、松浦高等学校において令和2年度から令和4年度まで文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の研究指定を受け、研究開発構想「まつナビ・プロジェクト」として、松浦市、大学、地元企業・経済団体、小・中学校等との連携・協働を実現するネットワークを構築し、関係機関がコンソーシアムとして一体的に合意形成を図りながら、計画的・持続的に連携・協働する体制を整備し、3年間の地域課題探究学習を充実させるカリキュラムの研究開発に取り組んだ。また、令和4年度に文部科学省「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業（普通科改革支援事業）」の研究指定を受け、地域科学科における地域課題探究学習と学習評価を一体的に行うカリキュラムの開発や、中高・高大連携の推進、県内外の地域に根ざした高等学校とのネットワークの構築・交流に取り組んだ。

さらに現在その他にも、文部科学省が実施している

- ・「SSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）」（3校）
- ・「WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業」（カリキュラム開発拠点校）
- ・「COREハイスクール・ネットワーク構想事業」

等の研究指定を受けるなど、複数の高等学校で各種の研究開発に取り組んでおり、さらにその取組を県下の全高等学校に共有・展開するための研究報告会も毎年実施しているところである。

②松浦高等学校における研究開発の実績

文部科学省委託事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」（地域魅力化型）

- ・松浦高等学校と松浦市が協働で取り組んできた高等学校2年生での地域課題探究学習「まつナビ」に、1年生での「プレまつナビ」、3年生での「ポストまつナビ」を連動させて、生徒の課題解決能力及びふるさとを大切にする姿勢を育成することを目指した、3年間の連続性のある「まつナビ・プロジェクト」に進化させ、次のⅠ、Ⅱの研究開発単位を設定し、令和2～4年度に研究開発を行った。

- Ⅰ 地域を愛し大切にする姿勢の育成と課題解決能力を高めることを目指した、高等学校3年間の地域課題探究学習を充実させるカリキュラムの研究開発
- Ⅱ コンソーシアムをはじめとする、地域課題探究学習を組織的に支援する体制についての研究開発

※10.5ポイント以上。1ページ以内で記入すること。

(5) 運営指導委員会の体制

所属	氏名	主な実績
無	佐々木 龍二	前長崎大学サテライトオフィス松浦コーディネーター、元松浦市立中学校長
長崎県立大学	本田 道明	学長補佐
鎮西学院大学	加藤 久雄	現代社会学部 教授
西海みずき信用組合	前田 幸輔	地域振興室長（前日本政策投資銀行）
自営業	川浪 剛人	前まつうら創生推進室長
県企画部政策企画課	小柳 正典	企画監

(6) 運営指導委員会が取り組む内容

年間2回程度の委員会を開催し、事業目的・目標を踏まえた、地域科学科の事業の検証及び指導助言等を行う。その中で、以下の3点の取組について重点的に取り扱う。

- ①生徒の自己有能感を高める教育活動と学習評価を一体的に行うカリキュラムの開発
- ②地域課題探究学習及びキャリア形成力の涵養を図る活動を組織的に支援する体制の構築・運営
- ③県内外の「地域に根ざした高等学校」のネットワークの構築と、地域・学校活性化を目標とした学びを進める体制の構築・運営

※10.5ポイント。7行以内で記入すること。

4 学際領域学科又は地域社会学科における取組

(1) 学際領域学科又は地域社会学科におけるカリキュラムや教育方法等の特色・魅力ある先進的な教育の内容（学校設定教科・科目の詳細は別添1「学校設定教科・科目の設定に関する説明資料」に記載。）

①基本的な考え方

下記②に示す①～⑤の「資質・能力」の育成等を図る教育活動の特色化・魅力化をすすめるとともに、それぞれの関連性を強める。また、各教育活動のルーブリック評価規準を策定・公表し、生徒が各教育活動における取組の自己評価を行い、自ら改善を図ることができるようにすることで、目指す資質・能力の育成を継続的にすすめる（指導と評価の一体化の推進）。

②主な教育活動

① 松高キャリア・プランニング

- ・「自分の将来」について考え、決断し、その実現に向けた実践につなげる教育活動
- ・ルーブリック評価を活用した各教育活動における定期的な自己評価（振り返りと「松高ポートフォリオ」への記録・検証・取組の改善

② 「まっナビ・プロジェクト」（「地域高校」ネットワークの構築・協働研究を含む）

- ・地域課題探究学習により、「課題分析・解決能力」、「ふるさとを大切にす姿勢」を育成
- ・地域を素材とした授業開発により、教科横断型授業、各教科の学習内容と探究活動とを往還する学びの促進
- ・長崎大学、長崎県立大学との高大連携や松浦市をはじめとする学校外の組織等との協働
- ・「地域に根ざした高等学校」のネットワークを構築した上で協働研究・ネットワーク校会議等を実施

③ 一人一人の生徒のキャリアプランを踏まえた普通教科の学びの充実

- ・生徒一人一人のキャリアプランを踏まえ、ICTを有効に活用した、主体的で対話的な深い学びの推進
- ・「まっナビ・プロジェクト」との関連を深めることなどによって「課題分析・解決能力」等を伸ばす学びの推進

④生徒の自己有能感を高めるための主体的な活動の推進

- ・生徒会が中心となった行事等の企画・運営
- ・特別活動などにおける生徒の自発的な活動の充実

⑤生徒の「責任ある言動」を伸ばす活動

- ・特別活動等における、生徒相互が「支え合い、伸ばしあう学び」の推進
- ・各部活動で設定した目標に基づく、「人間力」向上に向けた活動の推進

③商業科との連携による教科横断的な取組

地域科学科での学びを深めつつ、地域課題探究学習を進める上で必要な課題分析・解決能力等のさらなる向上を図るために、商業科の「情報処理」や「マーケティング」等の授業内容の一部を、地域科学科の総合的な探究の時間及び学校設定科目等に取り入れるなど、教科横断的な取組によるカリキュラムの研究・開発を行う。

※10.5ポイント以上。1ページ以内で記入すること。

(2) コンソーシアム等の関係機関等との連携・協力体制の構築の考え方・方法

①連携・協力体制構築の考え方

- ・「資質・能力」の育成を図るため、コンソーシアムを中心に、「まつナビ・プロジェクト」での地域課題探究学習及び地域の中学生・高校生のキャリア形成力育成を図る活動をはじめとする取組への支援の充実を図る。また、生徒の多様な探究活動等に対応するため、助言等が可能となる団体・人物に支援を依頼するなどして、協力体制の強化を図る。

②連携・協力体制構築における重点項目

【令和4年度】

- ・ふるさと学習を起点とした中高協働学習や、高等学校、大学及び地元企業等の連携（以下、「高大職連携」。）によるSDGsを踏まえた「まつナビ・プロジェクト」の探究活動及び中・高校生のキャリア形成力育成活動への支援の充実を図った。
- ・コンソーシアムによる効果検証等に基づき、校内の「地域科学科・活性化ミーティング」に「学びアドバイザー」や関係機関の担当者に定期的に参加してもらい、持続可能な組織の在り方を含む連携・協力体制の改善を図った。

【令和5年度】

- ・令和4年度の検証等を踏まえて、連携・協力体制の充実と生徒の探究活動へのより効果的な支援を進めるとともに、検証をさらに進め、連携・協力体制の改善を図る。

【令和6年度】

- ・地域・学校活性化に向けた中高・高大職連携をはじめとする松浦高等学校と参加組織等との3年間の取組の検証等による総括、国指定終了後の連携・協力体制等の進め方について検討する。

(3) コンソーシアムの構成員

所属	氏名	主な実績
松浦市	友田 吉泰	市長
松浦市議会	谷口 一星	議長
松浦市教育委員会	黒川 政信	教育長
松浦市小中学校校長会	年徳谷辰也	副会長（志佐中学校長）
松浦市商工会議所	稲沢 文員	会頭
松浦高等学校PTA	川下 高広	会長
松浦高等学校同窓会	藤田 英敏	会長
長崎大学教育学部	藤本 登	学部長
長崎県立大学地域創造学部公共政策学科	バロリ・ブレンディ	講師
株式会社エミネントスラックス	前田 周二	代表取締役社長
松尾農園	松尾 秀平	代表
長崎県教育庁高校教育課	田川耕太郎	課長

※10.5ポイント以上。1ページ以内で記入すること。

(4) 配置するコーディネーターの属性や役割

	所属	氏名
①	元松浦市立中学校長	大内 康仁
②	株式会社GAROO	馬庭 亜由

当該者の主な実績

①大内 康仁	
平成21年4月～24年3月	松浦市教育委員会（課長補佐等）
平成24年4月～令和4年3月	松浦市立福島中学校・御厨中学校長
令和4年6月～	松浦高校コーディネーター
②馬庭 亜由	
令和4年4月～	株式会社 GAROO 社員（佐賀県伊万里市へ総務省「地域活性化起業人（企業人材派遣制度）」として派遣

※7行以内で記載すること

コーディネーターが取り組む内容（勤務形態を含む）

①取り組む内容
○松浦高等学校と松浦市内外の小・中学校や諸事業所及び長崎県内外の高等学校とをつなぎ、松浦高校での新しい学びの周知・浸透を図るためのコーディネート
・コンソーシアムに参加している事業所（まつうら高校応援団）等と、生徒の学びへの支援内容や方法について調整する
・生徒の多様な探究活動等に対応するため、助言等が可能となる団体・人物に支援を依頼する
・近隣小中学校や松浦市、事業所等との意見交換・情報収集、松浦高等学校職員との情報共有する
・「まっナビ・プロジェクト」を活用した松浦高等学校と近隣小中学校との交流学习の企画・運営
・近隣中学校に対する地域科学科の生徒募集活動、広報活動及び情報交換
・長崎県内外の高等学校との連携事業を具体化し、生徒間・教員間の意見交換の場を設定する
○地域科学科のカリキュラム策定の支援及び生徒の学びに向かう力の育成支援
・校内プロジェクトチームの一員として、地域科学科の学びに関する校内協議・参加し、提案等を行うことによる地域科学科の教育活動の充実につなげる。
・生徒の地域課題探究活動について具体的な助言を行い、学びの深化・広がり及び生徒の主体性育成を支援する。
②勤務形態（週14時間勤務）
○各コーディネーターは1週あたり2日間、松浦高等学校で勤務する。また、近隣小中高校及びコンソーシアムに関連する事業所等への訪問等を行う。

※10.5ポイント以上。1ページ以内で記入すること。

(5) 学際領域学科又は地域社会学科の設置及び設置に向けた検討に関する生徒、保護者、地域等への説明の実施

①令和4・5年度実施

○生徒・保護者対象

- ・ 中学3年生及びその保護者、中学校3年生担任、小学生の保護者等を対象とした説明会を開催し、本校のスクールミッション・スクールポリシーや地域科学科の特色等を説明。また、地区別の進学相談会を実施
- ・ 地域課題探究学習「まつナビ」のプレゼンテーションを市内の中学校で実施
- ・ 年2回のオープンスクールの中で、中学生や保護者に対して地域科学科に関する個別相談を実施
- ・ 広報の在り方等に関する中学校との情報交換

○地域住民等対象

- ・ 松浦市の市報に、本校の特集記事を掲載
- ・ 市報に差し込む形で本校の学校だよりを松浦市内の全家庭に配付
- ・ 松浦市教育委員及び教育委員会への説明・協議
- ・ 松浦市及び近郊の商店街で地域科学科のポスターの貼付、松浦鉄道の列車及び路線バスに地域科学科のポスターを掲示
- ・ 地元のマスメディアによる番組や特集記事などを通じた説明

②令和6年度実施計画

○生徒・保護者対象

- ・ 中学生の進路決定前に、近隣の中学校の全学年を対象として、早期から学校説明会を実施
- ・ 中学校の総合的な学習の時間等と本校の「まつナビ・プロジェクト」の時間をリンクさせた中高協働（志佐中学校等との中高連携）学習の実施
- ・ オープンスクールによる授業・部活動体験
- ・ 地区別相談会を実施し、保護者を含む本校への理解促進
- ・ 個別相談会、学校開放など個別対応による疑問の解消
- ・ 部活動合同練習会による生徒同士の親睦
- ・ 本校ホームページやSNSによる生徒活動情報の発信
- ・ コーディネーターと中学校との連携を密にした情報交換
- ・ 放課後や休日に中高生と一緒に自学等を行う「松高学び場」の設置

○地域住民等対象

- ・ ポスターやチラシの配付等、松浦市と連携した学校紹介
- ・ 本校ホームページにおける地域科学科のカテゴリの更新・充実、地域課題探究学習「まつナビ」等の情報発信
- ・ コンソーシアムの協力による地域への説明及び意見交換
- ・ 「まつナビ・プロジェクト」活動など生徒と直接関わる外部人材による「松高応援団」の活動の充実

※10.5ポイント以上。1ページ以内で記入すること。

5 実施計画

(1) 3ヶ年の実施計画の概要

地域科学科（地域社会学科）における令和4～6年度の実効性を高めるため、取組の目的・目標及び教育活動を通じて生徒が獲得することを旨とする「資質・能力」を踏まえ、次のⅠ～Ⅲの実施計画及び各年度における実施計画を策定。

①実施計画

- Ⅰ 育成を目指す「資質・能力」に基づき、教科等を横断する学びを含む、生徒の自己有能感を高める教育活動と学習評価を一体的に行うカリキュラムの研究開発
- Ⅱ コンソーシアムを中心とした、中学校と高等学校の学びの連携・交流及び高等学校と大学・企業等の連携による、SDGsを踏まえた地域課題探究学習及びキャリア形成力の涵養活動を組織的に支援する体制の構築・運営の充実
- Ⅲ 県内外の「地域に根ざした高等学校」（以下「地域高校」）のネットワークの構築と、地域・学校活性化を目標とした学びを進める体制・運営の研究開発

②各年度における実施計画

○令和4年度

- 計画Ⅰ 各教育活動ルーブリック評価規準作成・実践・改善
- 計画Ⅱ 中高・高大職連携の推進とその効果等の検証に基づく連携・協力体制の在り方を含む改善
- 計画Ⅲ 「地域高校」ネットワークの構築・交流の開始

○令和5年度

- 計画Ⅰ 生徒のキャリアプランの作成状況を踏まえたルーブリック評価表及び評価規準の検証・改善、各教育活動への反映
- 計画Ⅱ 令和4年度の検証等を踏まえた支援体制の充実と生徒の探究活動等への支援の検証・改善
- 計画Ⅲ 「地域高校」ネットワーク参加校における生徒間の協働活動の推進、教員間の情報共有

○令和6年度

- 計画Ⅰ 地域科学科1期生のキャリアプランの実現に向けたプロセスの検証等による総括、次年度以降の計画策定
- 計画Ⅱ 地域・学校活性化に向けた、3年間の生徒支援の検証等による総括、次年度以降の計画策定及び地域素材を活用した授業開発及び開発した授業を中心とする学校設定科目（1単位）設置に向けた年間計画の策定
- 計画Ⅲ 「地域高校」ネットワークの3年間の取組の検証等による総括、次年度以降の計画策定

※10.5ポイント以上。1ページ以内で記入すること。

(2) 令和6年度の計画の内容

月	事業の内容	
	カリキュラムや教育方法等の開発	関係機関等との連携・協力体制の構築
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○資質・能力を身に付けさせるためのルーブリック評価規準やポートフォリオ活用に関する生徒への説明・運用開始(全体) ○外部機関のアセスメント・レディネス調査実施(全体) ○地域素材を活用した授業計画の作成 →教科横断型授業、各教科の学習内容と探究活動とを往還する学習 ○職員研修(全体) ○進路別探究活動のテーマ設定(3年) ○班別探究活動の本格化(2年) ○中学校の活動の振り返り(1年) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ルーブリック・ポートフォリオの活用 →学びアドバイザーとのルーブリックの確認 ○外部機関のアセスメント →管理機関との結果の共有 ○職員研修(ルーブリック等、外部機関のアセスメント、地域素材を活用した授業づくり) →大学及び管理機関からの指導・助言
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○進路別探究活動の継続(～7月)(3年) ○班別探究活動の継続(2年) →課題分析・解決能力の育成 ○探究スキル(課題発見)育成講座、地域の魅力について知るための松浦未来講演会の実施(1年)→探究スキル、ふるさと貢献力 	<ul style="list-style-type: none"> ○2年探究活動→コンソーシアムを通じて大学及び地域人材等に支援依頼 ○探究スキル育成講座→大学との連携、外部講師招聘 ○松浦未来講演会→松浦市役所・まつうら高校応援団加盟各事業所との連携
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○コンソーシアム会議・運営指導委員会(全体)→職員へのフィードバック ○班別探究活動の継続・中間発表準備(2年) →課題分析・解決能力、プレゼン力 ○「Matsuura 仕事図鑑」作成(1年) →ふるさと貢献力、必要なスキル育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンソーシアム会議・運営指導委員会 →研究開発及び事業推進体制への指導助言 ○班別課題研究→長崎大学生や長崎県立大学生・外部審査委員・地域等の人材からのフィードバックによる研究 ○仕事図鑑→地域の人材活用
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域高校」との連携・協働研究ミーティング(全体) ○進路別探究活動のまとめ(3年) ○中間発表会(2年) →課題分析・解決能力・プレゼン力 ○フィールドワーク(2年)及び仕事図鑑インタビュー(1年)→ふるさと貢献力 	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域高校」との連携→外部機関及び連携高校とのミーティング内容の調整 ○中間報告会→大学生・外部審査委員・地域等の人材からのフィードバック ○フィールドワーク・仕事図鑑インタビューの支援→コンソーシアム等との連携
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○個人・班別の取組のとりまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ○必要に応じて外部諸事業所と連携
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○進路別探究活動のまとめ(3年) ○フィールドワークの成果を生かした班別探究の継続(2年)→課題分析・解決能力 ○仕事図鑑報告会(1年) →資料作成力、プレゼン力 	<ul style="list-style-type: none"> ○仕事図鑑報告会 →インタビュー対象者の招待

10月	<ul style="list-style-type: none"> ○進路別課題研究論文作成（～12月） ○課題研究発表会準備（2年）→課題分析・解決力・プレゼン力 ○研究テーマ設定及び研究活動構想（1年）→自ら学び行動する力 ○地域の伝統芸能見学（1年）→ふるさと貢献力 	<ul style="list-style-type: none"> ○プレ構想発表会（1年） →大学生・地域人材からのフィードバック ○伝統芸能見学→見学先との調整
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○課題探究発表会（2年）・発表会見学（1年）→課題分析・解決能力、プレゼン力 ○東京フィールドワーク準備（2年） ○研究活動班の始動（1年） 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題探究発表会→長崎大生や長崎県立大学生および外部審査委員への評価方法の説明 ○東京フィールドワーク→訪問先との調整
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○東京フィールドワーク（2年） ○「地域高校」との連携ミーティング・生徒交流会（2年） ○各研究活動班でのテーマ設定（1年）→課題分析力 	<ul style="list-style-type: none"> ○東京フィールドワーク→訪問先との調整 ○「地域高校」との交流会 →連携校との調整、会場との調整 ○必要に応じて外部諸事業所と連携
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○1年間の取り組みを振り返るアンケートの実施・ポートフォリオの作成（全体） ○3年間の総括（3年） ○課題探究のまとめ（2年） ○インターンシップ準備（2年） ○班別研究構想発表会準備・フィールドワーク（1年） 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒アンケート等→結果の分析及び管理機関との共有 ○インターンシップ→各事業所との調整 ○班別構想発表会準備・フィールドワーク →各事業所との連携
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○コンソーシアム会議・運営指導委員会（全体） ○インターンシップ準備（2年） ○班別研究構想発表会準備・フィールドワーク（1年） 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンソーシアム会議・運営指導委員会→アンケート等の分析結果に基づき、課題研究活動や事業の検証を行い、次年度の計画を立案 ○インターンシップ→各事業所との調整 ○班別研究構想発表会準備・フィールドワーク →各事業所との連携
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○インターンシップ（2年） ○フィールドワーク（1年） 	<ul style="list-style-type: none"> ○インターンシップ→各事業所との調整 ○フィールドワーク →各事業所との連携

(3) 事業の進捗状況の定期的な確認や改善の仕組み（事業のアウトプットやアウトカムの考え方、目標指標の設定は別添2「目標設定シート」に記載。）

地域科学科における事業の進捗を管理するとともに、計画Ⅰ～Ⅲを中心に進める事業の質的な向上を図るため、PDCAサイクルに基づく組織マネジメントを校内外の組織をつなげて推進する。その際、成果指標（アウトカム）設定の考え方等に基づき、事業の成果と課題を検証する。

①定期的な確認や改善を図る組織及びその活動内容

○地域科学科・活性化ミーティング

- ・成果目標を踏まえて、研究開発の進捗管理を行い、プロジェクトチームが中心となって計画・方法等の改善を図る。

○コンソーシアム会議

- ・定期的なコンソーシアム会議における、松浦高等学校との連携の内容・方法等に関する意見等を踏まえ、プロジェクトチームが中心となって改善案を検討する。

○運営指導委員会による検証・改善

- ・定期的な運営指導委員会による、成果目標を踏まえた事業の検証及び指導助言等により、プロジェクトチームが中心となって改善案を検討する。

②成果指標（アウトカム）設定の考え方

○計画Ⅰにおける成果指標

生徒個々のキャリアプランを踏まえた、進路希望の実現率（%）

キャリアプラン策定及びその実現にむけたプロセス及び進路実現に関する、ポートフォリオを用いた生徒自己分析を用いて評価

○計画Ⅱにおける成果指標

課題研究発表会等において、審査員等から地域活性化への貢献度が高いと認められた研究プロジェクト数の割合（%）

コンソーシアムと協働した、「まっナビ・プロジェクト」での実践を含む探究活動の有効性に関する審査員による審査内容から評価

○計画Ⅲにおける成果指標

育成したい資質・能力（課題分析・解決能力、コミュニケーション力、ふるさと貢献力）に関するルーブリック評価規準の到達度（5段階）における生徒自己評価の平均値

生徒の自己有能感の向上が学校活力の向上につながるの考え方に基づき、上記項目に関する生徒自己評価から有効性を評価

③その他

○生徒、保護者、教職員等アンケートの実施

- ・地域科学科の取組に関する理解度、満足度等のアンケート調査の結果分析に基づき、事業計画の改善を図る。

○外部機関のアセスメント等の実施

- ・外部機関のアセスメント等を有効活用し、生徒の強みや学力育成の下支えとなる「興味・関心」「学習生活パターン」等の結果を通して、自己理解を深めさせる。

※10.5ポイント以上。1ページ以内で記入すること。

6 成果の普及のための仕組み

次の①～③により、成果の普及を図る。

①小・中学校及び地域等への成果普及

○松浦高等学校のWebページ上に専用のカテゴリを作成し、以下の生徒の活動状況を随時更新、SNSでの情報発信

- ・「まっナビ・プロジェクト」での取組等
- ・コーディネーター等が企画・運営した、中高生のキャリア形成につながる学び等
- ・中学校「ふるさと学習」と「まっナビ・プロジェクト」との連携による「中高協働学習」等

○本校生徒が、小・中学校を訪問して児童・生徒向けに課題研究の成果を発表

②県内外の「地域に根ざした高等学校」のネットワーク間の成果共有・成果普及

- ・互いの活動や成果を共有し、協働することによって生じる各種の成果をそれぞれの学校が発信し、全国レベルでの普及につなげる。

③教員向けの成果共有・成果普及

- ・実践報告発表会等において地域への貢献度が高いと認められる生徒のプロジェクトを共有するため、発表会を公開する。
- ・Webへの掲載・配信や関係各校への報告書等の送付により、広く情報発信を行う。

7 国の指定終了後の取組継続のための仕組み

○管理機関として、松浦高等学校地域科学科の取組に必要な支援については、継続して行っていく。

○「地域科学科・プロジェクト」及び「地域科学科・活性化ミーティング」での教員間の対話、プロジェクトの改善に向けた取組を充実させ、校内組織の持続可能性を高める。

○コンソーシアムを構成する松浦市、大学、企業、小・中学校が、高校とコンソーシアムを構成するメリットを見出せるよう、研究指定期間中の情報共有・成果共有を徹底する。

○これまで構築してきたコンソーシアムのメリットを生かすため、令和7年度からコミュニティスクール（学校運営協議会制度）を導入する。

○コーディネーターの継続的な設置や「まっナビ・プロジェクト」に対する支援体制について、松浦市からの支援制度の在り方を含めて松浦市との協議の場を設ける。

※10.5ポイント以上。1ページ以内で記入すること。

8 事業経費 別添3のとおり

9 再委託の有無 有 ・ 無 (どちらかに○。有の場合は別添4「再委託先所要経費」及び様式第4「再委託申請書」を提出すること)

10 添付資料

- ① 新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)申請校の概要
- ② 令和6年度在籍生徒の3年間の教育課程表
※新設校の場合は令和6年度入学生のもののみご提出ください

11 管理機関の担当者

担当課・室	高校教育課高校魅力化班	担当者 職・氏名	係長・川村 雅春
電話(直通)	095-894-3356	F A X	095-824-5965
担当課メールアドレス	S40120@pref.nagasaki.lg.jp		